

Gordon Research Conference 2017 Phagocytes 参加報告

荒木 伸一

香川大学医学部組織細胞生物学

2017年6月11日から16日の間、ニューハンプシャー州 Waterville valley で開催された Gordon Research Conference (GRC) 2017 Phagocytes に参加する機会を得た。1年ほど前に、この会議の Chair である Dianne Cox 教授から招待メールが届く。いつものスパムメールかと思い危うくゴミ箱に入れそうになったが、長年私と同じ研究分野でマクロファージの phagocytosis 研究をしている研究者で名前に見覚えがあったので読んでみたところ来年の GRC で講演してくれないかという打診であった。GRC について知識がなかった私は、取りあえずネットで検索する。歴史と伝統のある会議で、生物学、化学、物理学の自然科学分野から毎年およそ 200 のテーマについて、アメリカ北東部ニューイングランド地方の田舎を中心に各地で開催されている。その分野の専門家が世界中から集まり、最新の未発表データを互いに披露しあって討論を行う。情報交換、共同研究のプロモート、ネットワーク構築を主な目的としたクローズドの集会で、参加者は 100 名程度に限られている。会議で見聞きした内容は参加者以外には口外してはならず、抄録集も作られない。会場内での写真撮影や録音も禁止されている。また、遠慮なく自由に議論ができるようにとスーツ、ネクタイの着用も禁じられているらしい。プレッシャーを感じながらも折角の招待を断るわけにはいかない。会議まで1年もあることだし準備は何とかなるだろうと覚悟をきめて参加することにした。

Boston 空港近隣のホテルからチャーターバスに乗り北へ走ることおよそ3時間、会場となる Waterville Valley Resort に到着する。リゾートといっても夏場のスキー場である。人里離れた山の中で5日間缶詰め状態で会議を行う。招待者は個室がもらえるが、一般参加者は、ロッジの部屋が相部屋で割与えられ、寝食を共にする。参加者には、Zipper closure model で有名な Silverstein 博士を筆頭に世界中から大御所が集結している。一般参加者の年齢層は若く、大学院生やポストドクといった人も多い。日本からの参加者は私一人であった。朝食のあと9時から12時まで講演、昼食の後は3時間ほど自由時間があり、ハイキング等のリクレーションにも参加す

ることができる。4時から6時までポスター発表と討論の時間となる。夕食後には夜のセッションが9時30分まで続く。時差ボケの影響もあってこの講演を聞くのはさすがに厳しいと感じたが、途中で抜け出すような人も全くおらず、さらにその後はバーに集い研究の話をしている。そのバイタリティを羨ましく思いつつ、酒も飲めない私はバーからは早々に退散し、自分の講演の準備をする。私の講演は3日目の午前中のセッション“Phagocytosis, macropinocytosis, exocytosis”であった。会議責任者である Cox 教授から、「一番遠くから来て時差ボケもあるだろうから、あなたの講演は3日目にしてあげたよ」と言われた。心遣いに感謝しつつも更にプレッシャーは高まる。まず2日間、他の人の講演を聞き、そのスタイルを学ぶ。一つのセッションは、招待講演は2-3題とポスター発表の中から選ばれたショートトーク1-2題からなる。講演は、25分のトークと15分の討論が割り当てられている。討論時間を短くしたいという下心もあり、多少発表時間は延長しても良いかと考えて準備していたが、トークは時間厳守とくぎを刺された。逆に討論時間は短縮してはいけないというのがお約束らしい。これは自由な意見交換・討論を重ねる GRC のポリシーに則ったもので、従うしか無さそうである。また、発表時間がタイトであっても最後の謝辞の時間は十分とり、研究に寄与した大学院生やポストドクを丁寧に紹介する。これは、会場の若手研究者を自分のラボへリクルートしたいという思惑もあるのかなと思った。実際、聴衆の中には、講演を聞きながら、演者のラボのホームページを調べているものも多く見受けられ、研究者の就職活動の場としても活用されていることを目の当たりにした。

2日間の講演に依ってパワポの修正を余儀なくされたが、私の講演はぴったり25分で終わることができた。討論では、発表内容への質問というよりは、感想やコメント、問題提起というものが多い。結構、長々と話す人が多く、私はそれに対し短いコメントを返すか相槌を打つだけで15分の討論時間もあっという間に終わった。プレッシャーから解き放たれ残りの2日間はリラックスして会議を楽しむことができた。顕微鏡関連では2光子レーザーによるがん細胞とマクロファージの intra-vital microscopy の発表が印象的であった。内容については公言してはならないことになっているので GRC の HP (<https://www.grc.org/>) で公表されているものを参照していただきたい。この HP から自分の関連する研究テーマの会議を検索し、一般参加に応募することもできる。参加費は、5日間の食費や宿泊費込みで1200~1300ドルと意外に高い。もちろん自腹ではなくラボの研究費から払ってもらうので、良い結果を出した若手研究者へのご褒美的なものかもしれない。フレンドリーな雰囲気の世界のトップレベルの研究者コミュニティに入り、ネットワークを形成し、最近の研究動向を探るには絶好の場所である。雑用から離れ、数日間はサイエンスの世界にどっぷり浸かるのも良いだろう。

Nobukazu Araki: Meeting Report: Gordon Research Conference 2017 Phagocytes

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

2017年9月5日受付